

府退教情報

発行日 2025年3月17日(月)
通巻 第87号
発行 大阪府退職教職員連絡協議会
発行責任 青柳 隆
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 7-11
大阪教組気付 TEL06-6762-7999

3/9 午後
中之島公園
女性像前広場
500名が参加

2025さよなら原発 ★関西アクション★★



脱原発を訴えるパレード

「2025 さよなら原発関西アクション」が3月9日午後、中之島女性像前広場を会場に開催された。主催は、平和人権センター等34団体による実行委員会。集会には500名が参加。府退教、退女教からは約50名が参加し、憲法第9条を誇りにする会のゼッケンを着用しアピールする会員も多数見られた。集会後は中之島から西梅田までのパレードが行われ、「新エネルギー計画による原発再稼働・新增設反対」「すべての原発を廃炉に」等を訴えた。

主催者を代表してあいさつに立った山口恒樹さんは「使用済み核燃料の行き場はない。老朽原発の再稼働はやめさせなければならない。政府はエネルギー基本計画を閣議決定し、原発を最大限活用しようとしている。福島を忘れず再生エネルギーと暮らしていく、そういう思いをもって脱原発の運動をすすめていこう」と述べた。

福島原発事故の後、埼玉県から岡山県に避難し、「せとうち交流プロジェクト」を推進する蝦名宇摩さん、蓮津さん、夜迦さんの親子3人の津軽三味線による「原発数え歌」等の演奏と歌の後、元静岡県湖西市長で、浜岡原発廃炉訴訟原告の三上元さんが脱原発の思いを語った。

「日本には50基の原発がある。日本周辺は北朝鮮、ロシア、中国などと緊張関係にあると言われるが、仮に戦争となった時、それだけの原発が攻撃されたら放射能が飛び散り、日本は滅びる。その危険性を原発を推進する保守派議員は認識していない。核廃絶の運動は高まっているが、その取り組みと脱原発の運動をつなげていく必要がある。プルトニウムを再処理するプルサーマル計画はすでに頓挫している。日本人は様々なことを忘れやすいが福島原発事故の教訓を忘れず、脱原発の声を上げていこう」と訴えた。

集会アピールでは、福島県郡山市から大阪に避難している森松明希子さんが「避難の権利、普通の暮らしを送る権利、子どもに被爆させない権利等、様々な人権が保障されるべき。安心できる未来を国と東電が奪った」と話した。

2月18日に閣議決定された7次エネルギー基本計画は「原発依存度を可能な限り低減」から「既設炉の最大限の活用」「次世代革新炉の開発」へと真逆に舵を切っている。安全を最大限確保とはいうが、自然災害多発の日本に安全神話は成り立たない。再生可能エネルギーのより一層の拡大で脱炭素をめざす道を選ぶべきではないのか。

(文 青柳 写真 森山)